

官民一丸となり桐生観光協会事務局のまちなか移転を（改訂継続）

桐生市の人口減少時代における地方創生の考え、方向性のなかに観光振興による交流人口の拡大や観光産業化を図るため、重要伝統的建造物群保存地区をはじめとする本市の貴重な資源の活用に向けた取組を推進するとともに、交流・集客に向けた特色あるイベントを開催する。また、インバウンド対策も視野に入れながら、多角的な情報発信を行い、地域の活性化にもつなげるとあります。

産業観光を切り口とした、まちづくりを強力に推進するには、桐生観光協会を核とした幅広い関係団体や機関、市民の結集が必要であり、観光協会を強化することがその実現に向けての第一歩となります。観光政策の充実のためにも、官民一丸となり桐生観光協会事務局のまちなか移転をして頂きますよう要望いたします

桐生市からの回答

観光を産業化するためには、民間の活力を最大限引き出すためにも、桐生観光協会の果たす役割は大きく、行政とは一線を画す協会の体制強化、機能充実などは極めて必要なことであります。また、観光協会の事務局をまちなかに設置することも、まちなか観光の拠点作りの観点から重要な課題であると認識しております。

現在、群馬銀行桐生支店の建替えに伴い併設される建物を活用し、観光まちづくりの拠点とすべく準備を進めており、行政業務の一部を担う場所として開設する予定です。現在、桐生観光協会事務局は、市職員が兼務している状況であり、まちなかに行政とは別の組織として同協会事務局を設置するには、観光協会組織のあり方、事業内容の検討、更には財源、専任職員の確保などについて、まずは、観光協会が主体的に検討いただきたいと考えております。

桐生観光協会は、桐生市物産振興協会との統合について検討を開始するとお聞きしており、両協会組織の方向性が決定され次第、組織強化について行政としてどのような支援が可能か、貴所をはじめ関係者と連携を図りながら研究してまいりたいと考えております。

〔回答担当〕 産業経済部観光交流課観光・物産係

絹遺産をはじめとする産業遺産は「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産に登録されたことによりその重要性が全国的に認識され、織物産業を基盤に発展してきた本市においても、その歴史や文化を今に伝える近代化遺産が数多く存在し、現在はその重要性和共に「まちの個性」としても注目されております。

今後もその重要性を的確に捉え、指定や登録など文化財保護制度による保存と活用の推進について、世界遺産とともに文化庁が認定した日本遺産「かかあ天下 - ぐんまの絹物語 - 」や県が登録する「ぐんま絹遺産」と連携し、また、観光に係る組織・団体と連携を図りながら各種施策の一助となるよう努めてまいりたいと考えております。

〔回答担当〕 教育委員会管理部文化財保護課文化財保護係